

報道記者発表資料 朝来市	提出日	令和5年6月8日
	問合せ先	担当部署：まちづくり協働部和田山地域振興課
		電話：079-672-6137
	担当者	課長：神谷 芳彦
担当：笹谷 和代		
件名	森はな没後35周年追悼企画「森はなの世界展」を開催します。	
<p>市では、「いとおしむ心」にあふれた、朝来市出身の児童文学作家 森はなの素晴らしさを広くPRするため、森はな文学の普及事業に取り組んでいます。</p> <p>その一環として、下記のとおり 森はな没後35周年追悼企画「児童文学作家 森はなの世界展～やさしさおしえてくれたひと～」を開催します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>日 時 令和5年6月24日(土)～7月9日(日)《休館日/会期中の毎水曜日》 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)</p> <p>場 所 あさご芸術の森美術館(朝来市多々良木739番地3)</p> <p>主 催 朝来市</p> <p>内 容 ○森はな作品の挿絵を描いた梶山俊夫^{かじやまとしお}さんの原画を紹介 「じろはったん」「キツネとしゅんぺいじいさん」 ○森はな愛用の品々や執筆原稿を展示 ○児童文学を楽しもう「森はな作品の読み聞かせ会」7月9日(日)10:30～11:00 ○思い思い描いて「森はな作品の缶バッチを作ろう」7月9日(日)11:00～12:00</p> <p>そ の 他 入場無料 ※常設展、企画展は別途入館料が必要です。</p> <p>問 合 せ 和田山地域振興課 電話 672-6137</p> <p>添付資料 チラシ、森はなリーフレット、梶山俊夫(略歴)</p>		

梶山俊夫（絵本作家）

1935（昭和10）年生まれ 東京都出身

日本大学芸術学部卒業

はじめ洋画家として出発した。

読売アンデパンダン展などで活躍し、パリに遊学。帰国後、絵本の世界に入り、各方面から高い評価を受ける。

シェル美術賞（昭和37）、チェコスロバキア世界絵本原画展金のリンゴ賞（昭和47）、講談社出版文化賞（昭和48）、小学館絵画賞（昭和48）、第5回日本の絵本賞（昭和57）などを受賞

絵本に「ごろはちだいまいようじん」「おんちよろちよろ」「さんまいのおふだ」挿絵に「じろはったん」ほか多数 著書に「ぼくの空、蛙の空」

特に森はな作品では、「じろはったん」以来、数多くの装丁、挿絵を担当し、名コンビといわれていた。

2015（平成27）年6月 逝去

朝来市の生んだ児童文学作家

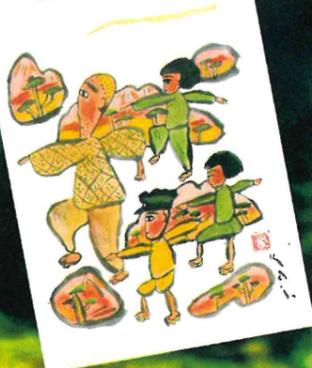
～やさしさおしえてくれたひと～

森はな

「じろはったん」の生みの親



森はなさん



「じろはったん」の原画：
梶山 俊夫



森はなの句碑（法泉寺境内）



梶山 俊夫 作

「じろはったん」像（朝来市和田山図書館前）



「じろはったん」の原画：
梶山 俊夫

■お問い合わせ先
朝来市役所
まちづくり協働部 和田山地域振興課
〒669-5292
兵庫県朝来市和田山町東谷213番地1
Tel : 079-672-6137
Fax : 079-672-4041

大蔵村じろはったん之図



絵図：和田典子

- ①養父駅
〈やぶい〜養父〉
「じろはったん」の語り手
はな先生が駅に降り立ちます。
- ②下宿あと（高田）
- ③土橋（石和橋）
じろはったん登場
「おったんは、わいがかいひいひいひい」
「まっちゃん、わいがかいひいひいひい」
荷物やての、わいがかいひいひいひい……
- ④大蔵小学校
疎開のこと、もたもちが
通ふと、わいのかいひいひいひい

⑤生家あと（宮田）

⑥若宮神社
敵の大将のワラ人形
〈フスッ フスッ〉
「死んでも、わいのかいひいひいひい」
山吹の花を供えるじろはったん

⑦法泉寺
神戸からの集団疎開のこと、もたもちがくらしと、わいのかいひいひいひい。
やさしい、わいのかいひいひいひい。そして、じろはったん
兵隊に行く、わいのかいひいひいひい……金鐘つき堂の石段
森はなの、わいのかいひいひいひい「壁追いて、授業中、わいのかいひいひいひい」

⑧JR養父駅
石和橋
高田
下宿あと
大蔵市民会館
大蔵小学校
JA
森はな生家跡
野田郵便局
和田山（糸屋橋）
右岸道路
山吹川（山吹川）
香住へ
王豊団
堀火団
法道寺
宮内
和田山図書館前





森はなさんってどんな人？

森はなは、朝来市和田山町宮田出身の児童文学作家です。養父市、朝来市、高砂市での32年間の教員生活を経て、退職後、童話を本格的に執筆しました。戦前から戦後の但馬を舞台に、知的障害のある青年と村の人々との心の交流を柔らかな但馬弁で綴った最初の作品「じろはったん」で日本児童文学者協会新人賞を受賞し、〈運送きの新人〉として脚光を浴びました。続いて「こんこんさまにさしあげそうろう」で絵本にっぽん大賞を受賞しました。その後、80歳で亡くなるまで、ふるさと但馬の風景を舞台にした物語を多く刊行しました。森はな文学の根底に流れるのは、「いとおしむ心」です。人をいとおしむ、自然をいとおしむ、社会を、そして、ふるさとをいとおしむ心です。「じろはったん」は、朝来市立大蔵小学校の児童により歌物語「じろはったん」として披露され、長年歌い継がれています。また、ミュージカルや紙芝居となり、大勢の人々の心に感動を届けています。森はなが伝えたかった「いとおしむ心」は、今もなお、しっかりと受け継がれているのです。

森はなさん 略歴

- 1909(明治42)年 兵庫県養父郡大蔵村宮田(現 朝来市和田山町宮田)に生まれる
- 1916(大正 5)年 養父郡大蔵小学校(現 朝来市立大蔵小学校)に入学
- 1924(大正13)年 兵庫県明石女子師範学校に入学
- 1928(昭和 3)年 明石女子師範学校卒業。養父郡南谷小学校へ赴任
- 1929(昭和 4)年 養父郡養父小学校(現 養父市立養父小学校)に転任
- 1932(昭和 7)年 大蔵小学校に転任。森種樹と結婚
- 1936(昭和11)年 加古郡荒井小学校(現 高砂市立荒井小学校)に転任。加古川に転居
- 1952(昭和27)年 荒井小学校を退職。助教員として印南郡伊保小学校(現 高砂市立伊保小学校)へ再就職。
- 1960(昭和35)年 伊保小学校を退職。神戸児童文学「あすの会」同人
- 1974(昭和49)年 「じろはったん」第7回日本児童文学者協会新人賞受賞
- 1975(昭和50)年 夫種樹逝去
- 1979(昭和54)年 「ひいちゃんとかチアオイの花」毎日放送(ラジオ)で放送
- 1980(昭和55)年 「じろはったん」毎日放送(ラジオ)で放送。同年度芸術祭ラジオ放送部門で優秀賞受賞
- 1982(昭和57)年 「こんこんさまにさしあげそうろう」第5回絵本にっぽん大賞受賞
- 1984(昭和59)年 NHK「チャンネル神戸」で「はな先生の童話教室」放送
NHK「おはようジャーナル・おんな西東」で「はな先生は本の先生」放送
第1回加古川文化賞受賞
- 1985(昭和60)年 サンテレビ「ライブラリアフライディ」で「森はな先生の作品を語る」放送
- 1986(昭和61)年 国際ソロプチミストアメリカ連盟より婦人栄誉賞受賞
- 1987(昭和62)年 毎日放送(ラジオ)「おはなしどんぶらこ」に2週連続出演
神戸新聞社より第41回平和賞受賞
- 1989(平成 元)年 6月 はな逝去



春開催「じろはったんウォーク」(朝来市和田山町大蔵地区)



秋開催「じろはったん村まつり」(朝来市和田山町大蔵地区)

わたしソエです

絵：梶山 俊夫

こどもの頃のできごとは、大人になったときに懐かしく思い出されます。幼い頃、ハナ先生と過ごした懐かしい日々を、教え子が語ります。思い出は、優しく温かい、心のふるさとです。

アリス館 刊行(1977年)
※在庫なし・重版未定



おばあちゃんは落語屋さん

絵：梶山 俊夫

重心になって、孫たちと語り合うおばあちゃん。生きていることを心から楽しんで暮らす「こはる屋艶生おばあちゃん」のお話です。「おばあちゃんは落語屋さん」は、カセットテープとしても発行されました(現在は重版未定となっています)。

学校図書 刊行(1981年)
※在庫なし・重版未定



ほい 一二とうけ

絵：梶山 俊夫

村から村へ越すには、長い峠がありました。峠の上のささやぶに住むキツネは、おちよちゃんに会うことが毎日の楽しみでした。彼岸花の咲く頃、日暮の峠を越えて行くおちよちゃんを助けてあげたいと考えたキツネは…。

PHP研究所 刊行(1986年)
※在庫なし・重版未定



土の笛

絵：梶山 俊夫 補筆：森 俊樹

森はなが亡くなった後、森俊樹氏(次男)が補筆して出版された、森はなの最後の作品です。おじいさんが目をつむり笛を吹く中、黙って笛の音に聞き入る「わたし」。おじいさんが何故陶器の横笛を作ったのか、何故「湖底の笛」という歌ができたのかが、佳奈ちゃんという少女の目を通して語られています。

PHP研究所 刊行(1996年)
※在庫なし・重版未定



※在庫がない書籍については、図書館等でご覧ください。

ハナ先生ものがたり

絵：松井 行正

村の分校に、初めて若い女の先生がやってきます。山奥の分校を舞台にした、ハナ先生と子どもたちとの心温まる物語です。

アリス館 刊行(1975年)
※在庫なし・重版未定



もどってくるもどってこん

絵：若菜 埜

ハナと村の子どもたちは、佐あじい大好きです。ある日、佐あじいは「やぶ入り」で村を出て行ってから、秋になっても帰ってきません。コンペイトウの花を一つ一つちぎり、「もどってこ、もどってこん」と占いながら、佐あじいの帰りを待ちわびるハナでした。

PHP研究所 刊行(1980年)
※在庫なし・重版未定



わたしはめんどうコッコです

絵：梶山 俊夫

アキヒコくんを買ってもらいたいと思い、アキヒコくんの手をコッコツ突いた、めんどうりのコッコ。そんなコッコが、にしむら家のみなどと過ごした愉快な日々を語る作品です。

金の星社 刊行(1985年)



キツネとしゅんぺいじいさん

絵：梶山 俊夫

トントンと戸をたたく誰か。しゅんぺいじいさんは、そっと戸を開けましたが誰もいません。お腹を空かせたキツネだろうと、心優しいおじいさんは、キツネのために食べ物を置いてあげました。雪深い山すその一軒家で一人暮らすおじいさんとキツネの心の触れ合いを描いた絵本です。

教育画劇 刊行(1988年)



森はなさん 作品紹介

じろはったん

画：梶山 俊夫

森はなの代表作であり、児童図書ベストセラーです。誰よりも純真で温かい心の持ち主「じろはったん」と村の人々、疎開してきた子どもたちとの心の交流を、おばあちゃんが孫に語って聞かせます。お話に出てくる人みんなの、温かい心の触れ合い、心の繋がりが、読心人の心を温かくします。

牧書店 刊行(1973年)
※現在は、アリス館より、刊行されている。



ひいちゃんとタチアオイの花

絵：梶山 俊夫

タチアオイの花に自分の名前を付け、どちらが長く花を付けていられるか競う遊びが、マキとひいちゃんは大好きでした。成長して別々の道を歩むようになって、二人の友情はいつそう深まります。

PHP研究所 刊行(1978年)
※在庫なし・重版未定



こんこんさまにさしあげそうろう

絵：梶山 俊夫

何日も何日も雪が降り続き、山も畑も真っ白です。暗い穴の中でお腹を空かせた子ギツネがいます。飢えと寒さに震える子ギツネのために、雪の野原に食べ物を探しに行く母ギツネの愛情が、但馬の伝承行事「野施行(のせぎょう)」をもとに描かれています。

PHP研究所 刊行(1982年)



こはる先生だいすき

絵：梅田 俊作

はとが生まれたとき、父親は、平和の使いのハトのように優しい女の子に育ててほしいと、「はと」と名を付けて、とても可愛がっていました。そんな父親の突然の死により口のきけなくなった「はと」と、こはる先生の心温まる物語です。

ポプラ社 刊行(1987年)
※在庫なし・重版未定



森はなさんのふるさと



法泉寺

瑞龍山法泉寺は、臨済宗のお寺で、開創は江戸初期頃です。「じろはったん」に登場するお寺とも言われ、春には桜の古木が見事な花を咲かせ、鐘つき堂を包みます。境内には森はなの句碑が立っています。



若宮神社

119段の石段を登ると円山川を一望できる場所にある若宮神社は、創建時期は不明ですが、豊岩彦命(とよいわまのかみ)他の神々を祀っています。「じろはったん」で、子どもたちがワラ人形を括り付けて竹やり刺すのをじろはったんが止め、そっと花をたもつけたエピソードは、このあたりが舞台であったという話です。

朝来市立大蔵小学校

1873(明治6)年に設立された大蔵小学校には、森はなが学び、教師として教えた時間が存在しています。森はな作品に感銘を受けた教員たちにより、子どもたちへ「じろはったん」の読み聞かせが行われ、後に曲がつけられ、ラジオドラマや劇となり、森はなの理想とする「いとおしむ心」は伝え続けられています。

百年桜

開校後間もなくして植えられ、大蔵小学校の歴史をずっと見つめてきた桜で、「百年桜」と呼ばれ親しまれています。校庭の環境は古木となった桜には厳しく、近年衰えが目立ち始めたため、樹勢回復と移植事業が行われました。百年桜は今日も、子どもたちを見守っています。



幼少期



7人兄弟姉妹(左端が森はな)

森はな没後35周年追悼企画

児童文学作家 森はなの世界展

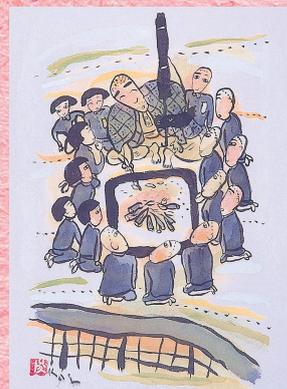
2023年6月24日(土)～7月9日(日)



森はな(昭和57年ごろ)朝来・法泉寺で



「じろはったん」より 梶山俊夫/絵



「じろはったん」より 梶山俊夫/絵



「キツネとしゅんべいじいさん」より 梶山俊夫/絵

〜やま〜おしえてくれたひと〜

児童文学を楽しもう
「森はな作品の読み聞かせ会」
日時…7月9日(日) 10:30～11:00

思い思いに描いて
「森はな作品の缶バッジを作ろう」
日時…7月9日(日) 11:00～12:00

あさご芸術の森美術館

☎679-3423 兵庫県朝来市多々良木739番地3
TEL 079-670-4111/FAX 079-670-4113

- 開館時間/午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
- 休館日/会期中の毎水曜日
- 観覧料/無料 ※常設展、企画展は別途入館料が必要です。
- ◆主催/朝来市・朝来市教育委員会
- ◆後援/朝日新聞豊岡支局、神戸新聞社、産経新聞社、新日本海新聞社、毎日新聞豊岡支局、読売新聞豊岡支局、両丹日日新聞社、サンテレビジョン、ラジオ関西
- ◆協力/姫路文学館・森はな顕彰会・あさご芸術の森美術館友の会・大蔵地域自治協議会



森はな没後35周年追悼企画

児童文学作家 森はなの世界展

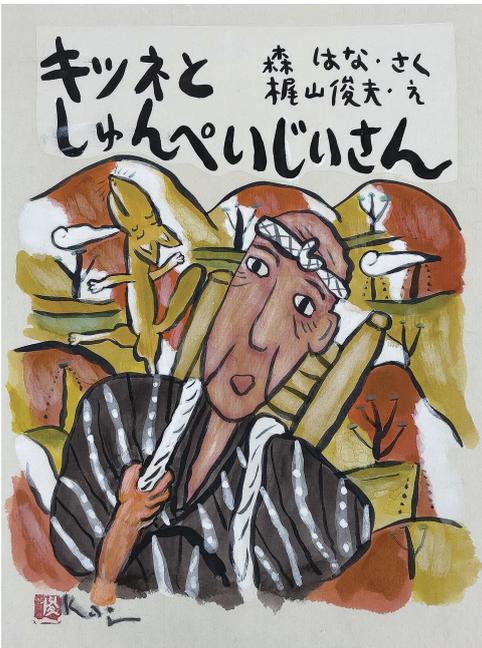
～やさしさ おしえてくれたひと～

朝来市和田山町宮田出身の児童文学作家・森はなは、長く務めた教員生活を終えたのち、童話を本格的に執筆しました。最初の作品「じろはったん」では、日本児童文学者協会の新人賞を最高齢で受賞し、「遅咲きの新人」として注目を集めました。人や自然、ふるさとをいとおしむ心であふれた作品は、多くの人々に読み親しまれています。

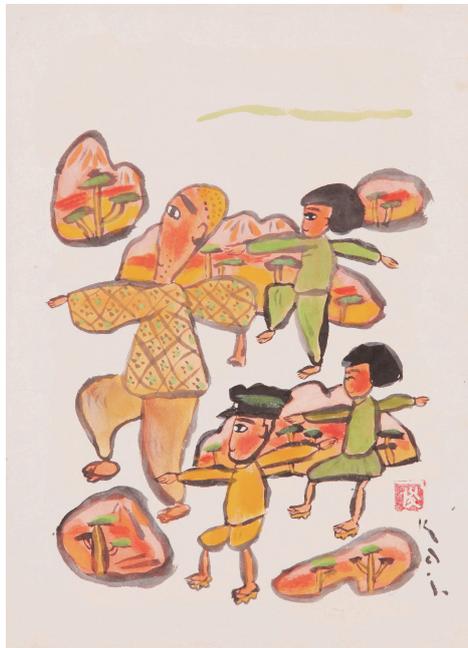
本展では、絵本の挿絵を描いた梶山俊夫の原画に加え、執筆原稿や森はな愛用の品々を展示します。森はな作品から溢れる「いとおしむ心」と「やさしさ」にふれてみてください。

【森はな 略歴】

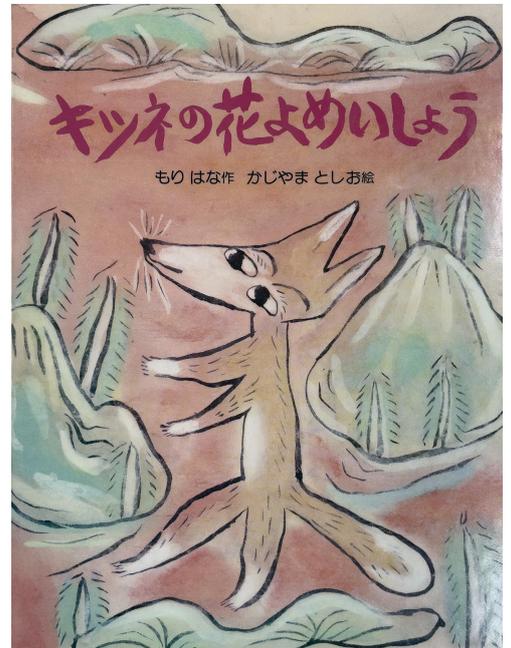
1909(明治42)年	養父郡大蔵村宮田(現・朝来市和田山町宮田)に生まれる
1928(昭和3)年	19歳、明石女子師範学校を卒業 養父郡南谷小学校へ赴任する
1932(昭和7)年	23歳、母校、養父郡大蔵小学校へ転任する 夫、森種樹と結婚
1936(昭和11)年	27歳、加古川市に転居
1973(昭和48)年	64歳、「じろはったん」刊行
1974(昭和49)年	65歳、「じろはったん」第7回日本児童文学者協会新人賞を受賞
1989(平成元年)年	6月に80歳で逝去



「キツネとしゅんぺいじいさん」より 梶山俊夫/絵



「じろはったん」より 梶山俊夫/絵



「キツネの花よめいしょう」より 梶山俊夫/絵

「じろはったん」は、朝来市立大蔵小学校の児童により歌物語「じろはったん」として披露され、長年歌い継がれています。また、ミュージカルや紙芝居となり、大勢の人々の心に感動を届けています。

児童文学を楽しもう

「森はな作品の読み聞かせ会」

日時…7月9日(日) 10:30～11:00

森はな作品の読み聞かせを展示会場内で行います。

思い思いに描いて

「森はな作品の缶バッジを作ろう」

日時…7月9日(日) 11:00～12:00

森はな作品の挿絵を描いて缶バッジを作りましょう。

 あさご芸術の森美術館

☎679-3423 兵庫県朝来市多々良木739番地3
TEL 079-670-4111/FAX 079-670-4113

〈交通のご案内〉

- JR播但線 新井駅下車 タクシーで8分
- 自動車 京阪神から120分 姫路から60分
中国自動車道(福岡I.C.)→播但連絡道(朝来I.C.)
→R312→あさご芸術の森美術館
舞鶴若狭自動車道(春日I.C.)→北近畿豊岡道(和田山I.C.)
→R312→あさご芸術の森美術館



観覧料割引券

〈本企画展期間中のみ有効〉

2023年6月24日(土)～7月9日(日)

50円割引券

本券1枚につき1人1回限り有効です。他の優待券・割引券との併用はできません。

 あさご芸術の森美術館